



Title	沿岸域管理入門 : 日本の沿岸域利用と保全の新秩序を求めて. 1, 沿岸域とは何か
Author(s)	敷田, 麻実
Citation	環境と正義, 40, 14-15
Issue Date	2001-04-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/34884
Type	article
File Information	1123.pdf



[Instructions for use](#)

沿岸域管理入門

日本の沿岸域利用と 保全の新秩序を求めて



その一・沿岸域とは何か 敷田 麻実 (金沢工業大学環境システム工学科助教授)

1、私たちの海と沿岸域

海という言葉が聞くと、私たちのほとんどは遠足で出かけた浜辺や楽しい海水浴の様子を思い出す。また誰もが子供の頃から慣れ親しんだ羽衣や浦島太郎の話は、海が舞台の話である。それほど身近な海だが、毎日の生活の中では接する機会が意外と少なく、レジャーや海水浴など一時のふれあいで海への渴望を満たそうとしている。しかし最近ではその希望も無残にうち砕かれ、埋め立てでコンクリート塊と化した汀線や、ゴミが散乱する海岸を、なす術なく悄然として眺めている人が多いのではなからうか。

しかし、こうした現状を単に海の自然環境破壊の問題として受動的に捉えるだけではなく、その原因を私たちの海の利用方法の欠陥に求め、そこから海を持続的に使う制度や政策など具体的に工夫する能動的な働きかけにまで高める必要がある。

実際にその必要性は、国連環境と開発会議の「アジェンダ21」でも認められ(第

一七章のAで「沿岸域の統合的管理」に言及)、また身近なところでは一九九八年策定の「二世紀の国土のグランドデザイン(いわゆる五全総)」でも、沿岸域圏という概念を設定し、「沿岸域管理」の意義を強調している。

そこでこの連載では、歴史的には海を大切にそして有効に利用してきた私たちの文化的・制度的背景を基礎に、今後どのように保全しながら利用してゆくのか、またそれはどうすれば実現できるのか、さらに海を含む沿岸域環境の持続的利用のための新秩序はどうあるべきかなどを考え、そのための考え方のひとつである「沿岸域管理」の仕組みを解説したい。

2、沿岸域とは何か

まず初めに、沿岸域とは何かについて説明しなければならぬ。対象がわからなくては、利用や管理は不可能だからである。しかし、沿岸域という言葉から、すぐにその具体的なイメージを描ける者はそう多くない。たいていは「岸に近い

海のことか」程度で、何となく納得する場が多い。しかし実際の海は単独では存在せず、海と陸が渾然一体となつてひとつの空間を形成している。そこでは陸と海は相互に影響し、生息する生物は海と陸を区別せず行き来することが多い。この特性を持つ空間はエコトーン(遷移帯)であり、一体として取り扱う必要がある。そのため「沿岸域」という言葉が考えだされた。日本では第三次全国総合開発計画(一九七七年)ですでに「陸域と海域を一体としてとらえて沿岸域とする」と沿岸域の概念が提唱されている。

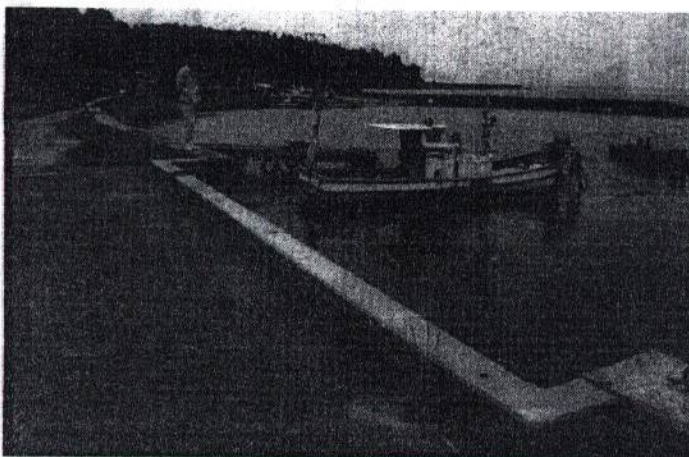
ところが実際には沿岸域の範囲を具体的に明示することは難しい。それは、常に地形が変化するのでその特性に加えて、利用方法によって複数の境界線がすでに引かれているからである。そこで最近では、海は領海まで、陸は最大で沿岸水域に影響を与える流域の範囲までを基準としつつ、その地域の事情に応じて柔軟に沿岸域の範囲を決める方法が受け入れられつつある。

ところで、海は主権の及ぶ領海までとして納得できるとしても、沿岸域の陸域はいつたい内陸のどこまでかということが気になる。一番狭い範囲は、番地がない(つまり登記されていない)、一般に「海岸」とよんでいる場所が沿岸域の陸域である。しかしこれは法律上の陸域の範囲であり、都市計画などの行政上の都合からいえば海岸線を持つ市町村の行政区域、さらに沿岸域に対する影響を考慮すれば、沿岸域に流入する河川流域の範囲

までに拡大するだろう。

このように、沿岸域の範囲の確定は難しい。しかし、範囲を明確にすることより重要なのは、沿岸域はあくまで陸と海が一体の空間という前提で問題を考えるアプローチである。

また範囲について具体的に示した最近の例では、日本沿岸域学会が昨年出した「二〇〇〇年アピール」がある。その中で、コアエリアとして「陸域は海岸植生の限界のおおむね一〇〇mから、海域はおおむね水深二〇mまで」、もしくは基本エリアとして「陸域は沿岸市町村の行政区域、海域は海岸線から沖合五海里まで」とする案が示されている。



穴水の漁港

3、ウオーターフロント とのちがい

ところで、沿岸域よりも一般的にはよく使われる「ウオーターフロント」は、陸域と川・海・湖沼の水域が接しているところを指す。日本建築学会の海洋委員会では「水際線に接する陸域周辺および、それにごく近い水域を合わせた空間」とさしているが、都市または都市の前面の海域と陸域を含めた地域を指しているのが一般的で、都市の海岸線に平行に延びる細い帯状の陸地と浅海域でということになる。そして工業生産のための港湾から、生活や余暇利用のための海浜公園などの沿岸域利用が活発になった現在、ウオーターフロントは「レジャーやレクリエーションの場である」都市部の沿岸域」を指す用語としても使われている。

4、海域と陸域の境界

沿岸域は海域と陸域の両方を含む空間だが、その中で両者の境界はいまいである。

第一に、潮汐の影響が大きく、海岸線の位置は最低低潮時海岸線から最高高潮時海岸線まで複数存在し、どの海岸線を基準にとるかによって陸域と海域の境界は変わる。そのため土地所有や権利の設定では、範囲が特定できないので深刻な問題を起す。

第二に、浸食と堆積によって海岸線が変化する。明治期から昭和までの日本全土の浸食面積は二一、五三九haに達して

おり、二〇m以上も海岸が後退した例もある。また逆に堆積によって海岸が増大することもある。さらには地球温暖化による海面上昇によって、海岸線は大きく変化することが予想されている。

第三に、沿岸域の地形的特性で目標物が少なく、位置出しがきわめて困難であり、境界線が確定できない。GPSの最近の発達のおかげでずいぶん改善されたが、陸上のように標識などで明確に境界を示すことは不可能である。

ただし、陸域と海域の境界については一応の共通理解が「春・秋分時における最高高潮時海岸線」と昭和六一年の最高裁判決で明確になっている。漁業権もその陸側の上限は「最大高潮時海岸線」とするのが普通であり、実質的に同じと考えられる。

なお国際法上、陸域と海域の境界の根本は、領海法にあるように低潮時の海岸線である。

沿岸域の概念がわかったところで、次回からは沿岸域の重要性とその価値、さらには危機にさらされている沿岸域環境の現状に触れ、なぜ陸域と海域を一体としたアプローチが必要なのかについて述べたい。

● 敷田麻実(しきたあさみ)

高知大学農学部栽培漁業学科卒業
後、石川県水産課に勤務、豪Janes
Cook University理学院・金沢大
学大学院社会環境科学研究科博士課程修了、現在、金沢工業大学環境システム工学科助教授。博士(学術)。